事業番号 2023 - 府 - 22 - 0167

令和5年度行政事業レビューシート

(内閣府)

事業名	革新的研究開発の推進		担当部局庁	科学技術・イノベーション推進事務局	作成責任者
事業開始年度	平成22年度	事業終了（予定）年度: 終了予定なし	担当課室	参事官（未来革新研究推進室）	中川　尚志
会計区分	一般会計				
根拠法令（具体的な条項も記載）	内閣府設置法（平11法89）第４条、第40条の４		関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定） 経済財政運営と改革の基本方針2022（令和4年6月7日閣議決定） 統合イノベーション戦略2022（令和4年6月3日閣議決定） 統合イノベーション戦略2023（令和5年6月9日閣議決定） ムーンショット型研究開発制度の基本的考え方について（平成30年12月CSTI本会議決定）など	
政策	20. 科学技術・イノベーション政策		主要経費	その他の事項経費	
施策	23. 科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進				
政策体系・評価書URL	-				

事業の目的（5行程度以内）	我が国は、少子高齢化の進展や大規模自然災害への備え、地球温暖化問題への対処等、多くの困難な課題を抱える中、それら課題解決に科学技術が果敢に挑戦し、未来社会の展望を切り拓いていくことが求められている。こうした中、我が国発の破壊的イノベーションを創出し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を行うムーンショット型研究開発制度（以下、「MS」という。）を推進する。また、ImPACT運用基本方針（CSTI革新的研究開発推進会議決定）等に基づき、過去事業であるImPACT事業のフォローアップ（研究成果の追跡調査等）を推進する。
現状・課題（5行程度以内）	MSについては、新たに開始した気象、こころの目標に関する研究開発を着実に推進するとともに、2022年度の環境及び農業関連の目標に引き続き、2023年度はサイバネティック・アバター、AIロボット、量子、健康・医療の目標に関し、3年目の外部評価に基づきステージゲートを実施し、プロジェクトの方向性の見直しを行う。目標達成に向けて、有望課題の絞り込みや人材確保、国際連携強化等を行いつつ、研究開始から最大10年間の研究開発に向けて引き続き充実を進める。加えて、総合知を活かして研究開発を一層効果的に推進するための分野横断的な支援（ELSI対応／数理科学等）の充実や、欧米等との国際連携の強化を行うとともに、国内外への研究成果のアウトリーチ・広報活動や、目標達成に向けた社会実装の担い手となる産業界との連携の充実も図る。
事業概要（5行程度以内）	本事業は、MSの戦略的な推進、研究開発の加速および社会実装にむけて、関係府省や研究推進法人の連携・調整等を図るとともに、過去事業であるImPACT事業のフォローアップを行う事業である。実施する内容は以下の3つである。 ①研究推進法人（以下「FA」と呼ぶ。）に対して戦略的な研究推進を進めさせるための「ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議」（以下、「MS戦略推進会議」という。）」の運営、情報の収集・分析等を実施する。 ②MSを引き続き充実させるために、目標横断的な支援および現地調査を行い、国内外へ研究成果のアウトリーチ・広報活動を強化する。 ③内閣府科技における研究開発推進制度設計に係る知見を得るために、ImPACT事業の追跡調査等に係る会議の運営、現地調査、情報の収集・分析等を行う。 このうち、①は令和2年から、②は令和5年から、③は令和4年から実施。
事業概要URL	https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html
実施方法	直接実施
補助率等	

予算額・執行額（単位:百万円）（インプット）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
予算の状況	当初予算(A)	3.2	3.4	9.3	15.5	60.5
	補正予算(B)	-	-	-	50	
	令和5年度第1次補正予算				50	
					-	
					-	
					-	
					-	
	前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
	翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
	予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	3.2	3.4	9.3	65.5	60.5
執行額(G)		0.6	0.5	5.7		
執行率（%） =(G)/(F)		20%	13%	61%		
当初予算＋補正予算に対する執行額の割合（%） =(G)/[(A)+(B)]		20%	13%	61%		

令和5・6年度予算内訳（単位:百万円）

歳出予算項・目			令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由（・要望額・予備費）
(項)		科学技術・イノベーション推進事務局			大阪・関西万博において、ムーンショット型研究開発事業をより効果的に情報発信するために行う調査研究の実施に伴う増。 重要政策推進枠：47
	(目)	科学技術基礎調査等委託費	11.8	55.8	
	(目)	委員等旅費	2.1	3.1	
	(目)	諸謝金	0.7	0.7	
	(目)	庁費	0.6	0.6	
	(目)	職員旅費	0.3	0.3	
		その他			

	計（A）	15.5	60.5

活動内容① （アクティビティ）	FAに対して戦略的な研究推進を進めさせるための「MS戦略推進会議」の運営、情報の収集・分析等を実施する。

↓

活動目標及び活動実績①（アウトプット）

活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度活動見込	6年度活動見込
MSの戦略的な推進	「MS戦略推進会議」等の会議開催回数	活動実績	回	5	4	3	−	−
		当初見込み	回	6	6	6	7	9

↓

成果目標①-1の設定理由 （アウトプットからのつながり）	内閣府科技では、「MS戦略推進会議」等を開催し、その結果を「総合科学技術・イノベーション会議」に報告することにより、有識者から制度や進捗に対する意見・助言を受け、革新的研究開発推進制度の更なる充実を図っている。「総合科学技術・イノベーション会議」への報告回数は、研究開発のポートフォリオを見直し、意見・助言を多く受けている指標であることから、アウトカムに設定した。なお、令和2年度、令和3年度はムーンショット目標立ち上げ時であり活動回数が極端に多いため、目標値はMS運用・評価指針で定める研究開発開始後（令和3年度）の研究進捗の自己評価の報告回数とした。

成果目標及び成果実績①-1（短期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
ポートフォリオの見直し等	「総合科学技術・イノベーション会議」への報告回数	成果実績	回	8	10	4	−
		目標値	回	−	1	2	2
		達成度	%	−	−	200	−

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	「総合科学技術・イノベーション会議」への報告回数。

↓

成果目標①-2の設定理由 （短期アウトカムからのつながり）	本制度における外部評価は、研究開始から3年目及び5年目とし、5年を超えて継続することが決定した場合は8年目、10年目に実施することとなっている。したがって10年目にあたる令和14年度での「総合科学技術・イノベーション会議」への外部評価結果の通算報告回数は、外部評価に基づき適切に制度運営が行われ、事業が継続している指標となることから、長期アウトカムに設定した。

成果目標及び成果実績①-2（中期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 年度
−	−	成果実績					
		目標値					
		達成度	%	−	−	−	−

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	−

↓

成果目標①-3の設定理由 （長期アウトカムへのつながり）	−

成果目標及び成果実績①-3（長期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 14 年度
MSの適切な制度運営	研究開始からの外部評価実施報告回数	成果実績	件	−	−	2	−
		目標値	件	−	−	2	36
		達成度	%	−	−	100	−

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	令和4年度の成果実績は、目標4と目標5の外部評価について報告した。 なお、外部評価は目標毎に実施するため、目標値は9目標×４回＝36回とした。

アウトカム設定についての説明

アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由
−

アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由
−

活動内容② （アクティビティ）	MSを引き続き充実させるために、目標横断的な支援および現地調査を行い、国内外に対して研究成果のアウトリーチ・広報活動を強化する。
↓	

活動目標及び活動実績②（アウトプット）

活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
国内外へのアウトリーチ・広報活動に向けたコンテンツ・企画の作成	コンテンツ・企画の作成数	活動実績	個	－	－	－	－	－
		当初見込み	個	－	－	－	14	12

↓ **成果目標②-1の設定理由** （アウトプットからのつながり）	内閣府科技では、国内外への目標横断的なアウトリーチ・広報活動のために、動画等のコンテンツ作成やシンポジウム等のイベント企画を行い、MSに関する情報を発信している。作成した動画の再生回数や企画したイベントの参加者数は、効果的なアウトリーチ・広報活動につながっているかを測れる指標であるため、短期アウトカムとして設定。内閣府科技が作成した動画、および企画は令和5年度から開始するため、令和5年の実績を踏まえて目標を設定する。

成果目標及び成果実績②-1（短期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
コンテンツを視聴したり、企画に参加し、MSの活動を理解する	コンテンツの利用者回数、企画への参加者数	成果実績	人	－	－	－	－
		目標値	人	－	－	－	－
		達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	内閣府科技が作成した動画等のコンテンツ利用者回数（各サービスに設けられたカウンターによる）、及び内閣府科技が企画したイベントの参加者数（議事、報告書による）等
↓ **成果目標②-2の設定理由** （短期アウトカムからのつながり）	本活動の目標の一つに、MSに対する国民への理解浸透がある。MSは2040年、2050年の未来像を描いて研究開発を進める社会実装を見据えた事業であり、最大10年の研究開発の継続や新たな生活様式・価値観の受容性を高めるためには、広報活動・アウトリーチを行い、本事業の必要性および未来像について国民に正しく理解頂く必要がある。そのため、イベント等で実のアンケート調査に基づく「MSに関する国民の理解度」が指標になると考えており、長期アウトカムとして設定。本アンケート調査は、研究者だけでなく国民に広く問う必要がある。よって、目標値等は、一般来場者が多く参加する令和6年に実施予定の大阪・関西万博での調査結果を踏まえて設定する。

成果目標及び成果実績②-3（長期アウトカム）

成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 令和 12 年度
MSに関する国民の理解度の醸成	アンケート結果に基づく理解度	成果実績	%	－	－	－	－
		目標値	%	－	－	－	－
		達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	令和6年度実施予定の大阪・関西万博におけるアンケート調査結果

アウトカム設定についての説明

アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由
MSは2040、50年の未来像を描いて研究開発を進める社会実装を見据えた事業であり、MSの戦略的な推進と同時に2040、50年の新たな生活様式に関する国民の受容性を高めていくことが必要である、アクティビティ②は、国民に対して本事業の必要性および未来像について理解浸透を図るために令和5年度から開始するものであり、現在の国民の理解度・浸透度が不明であることから、定量的なアウトカムの設定が難しい。令和5年度に得られる結果をもとに定量的な目標値を設定する。
アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由
–

活動内容③ （アクティビティ）	内閣府科技における研究開発推進制度設計に係る知見を得るために、ImPACT事業の追跡調査等に係る会議の運営、現地調査、情報の収集・分析等を行う。
↓	

活動目標及び活動実績③ （アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	ImPACT事業の追跡調査に向けた取り組み	ImPACT事業の追跡調査に向けた情報収集回数	活動実績	件	4	6	18	－	－
			当初見込み	件	18	18	30	19	17

↓ 成果目標③-1の設定理由 （アウトプットからのつながり）	内閣府科技では、今後の研究開発制度を充実させるための制度設計に活用できる知見を獲得するために、ImPACT事業の社会実装状況や研究継続状況等に関して、ImPACT事業へ参加したプロジェクトマネージャーへのアンケート・ヒアリング等で情報収集を行っている。情報の分析結果である追跡調査回数は、分析に必要な十分な情報を得られている指標であるため、短期のアウトカムとして設定した。

成果目標及び成果実績③-1 （短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度
	ImPACT事業の追跡調査の実施	ImPACT事業の追跡調査の回数	成果実績	回	－	－	1	－
			目標値	回	－	－	1	3
			達成度	%	－	－	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	ImPACT事業へ参加したPMへのアンケート・ヒアリング等による情報に基づいて実施した追跡調査回数。 追跡調査の内容をもとに有識者と議論を行う追跡評価を令和6年度に予定しており、令和6年度までに計3回（令和4年度も含む）の追跡調査を実施する予定。
↓ 成果目標③-2の設定理由 （短期アウトカムからのつながり）	本追跡調査は、その調査結果について有識者と議論し、研究開発推進制度の知見を得ることを目的としている。令和6年度に予定している追跡評価は、追跡調査の結果について有識者と議論する場であり、その開催の要否は、適切な追跡調査が行われ有識者から知見を得られた指標となることから、長期アウトカムとして設定。

成果目標及び成果実績③-2 （中期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 年度
	－	－	成果実績		－	－	－	－
			目標値		－	－	－	－
			達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	－
↓ 成果目標③-3の設定理由 （長期アウトカムへのつながり）	－

成果目標及び成果実績③-3 （長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度
	研究開発推進制度設計の知見の獲得	ImPACT事業に係る追跡評価の回数	成果実績	件	－	－	－	－
			目標値	件	－	－	－	1
			達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	令和6年度に作成予定のImPACT事業の追跡評価報告書
アウトカム設定についての説明	アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由
	アクティビティ③では、追跡調査の結果に基づき有識者と議論し、研究開発推進制度の知見を得ることが目的である。得られた知見は、MSの充実や新規の研究開発推進制度の設計に活用予定であるが、MSの充実については追跡評価に基づく判断がが必要であり、新規研究開発推進制度は立ち上げの予定がないことから、長期アウトカムの定量的な設定は難しい。
	アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由
	－

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名称	−
	URL	−
	該当箇所	−

事業所管部局による点検・改善

点検結果	・科学技術イノベーションの創出は、我が国経済の再生に向けた原動力であり、今後、社会のあり方を飛躍的に変え、パラダイムシフトを引き起こす力の源泉となり得るものとして、経済界からも国家の重要戦略として推進することが求められている。このため、失敗を許容しながら困難な社会課題の解決を目指すMSおよびImPACTは、我が国社会のニーズを反映したものと言える。 ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等に革新的研究開発の推進は重要な施策と位置付けられており、他の先進諸国が進める科学技術政策との関係においても、政府が体系的・計画的に推進することが必要な施策であることから、MSの進捗管理は国が自ら行い、地方自治体や民間では行い得ないものである。 ・我が国経済の再生等に向け、科学技術イノベーションの創出が求められる中、MSは、総合科学技術・イノベーション会議が主導する科学技術イノベーション創出のための重要な手段（施策）のひとつとして、第6期科学技術・イノベーション基本計画等に位置付けられており、その効果的な推進を図る本事業は、政策目的の達成に必要かつ優先度が極めて高い事業である。	**目標年度における効果測定に関する評価（令和4年度実施）** アクティビティ①のアウトプットである会議開催、アクティビティ③のアウトカムである情報収集活動の回数については、目標値に対して60%以下の達成度であった。その要因として、令和4年度のCOVID-19による行動制限のため、計画通りに開催ができなかったことがあげられるが、令和5年度以降は計画通り推進する予定である。
改善の方向性	MSの戦略的な推進に際して、外部有識者で構成される「MS戦略推進会議」を開催しているが、その実施に当たっては、回数や所要人員等を精査するとともに、事前に十分な打合せや情報収集を行うことで効率化に努めている。引き続き、MSの経費の効果的・効率的な執行を図るよう適切な進捗管理を行う。	

外部有識者の所見

−

行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見

現状通り	引続き、過去の外部有識者の所見を踏まえ、事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り	引続き、過去の外部有識者の所見等もを踏まえ、事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に努める。

過去に受けた指摘事項と対応状況

公開プロセス・秋の年次公開検証（秋のレビュー）における取りまとめ

−

上記への対応状況

−

その他の指摘事項

−

上記への対応状況

−

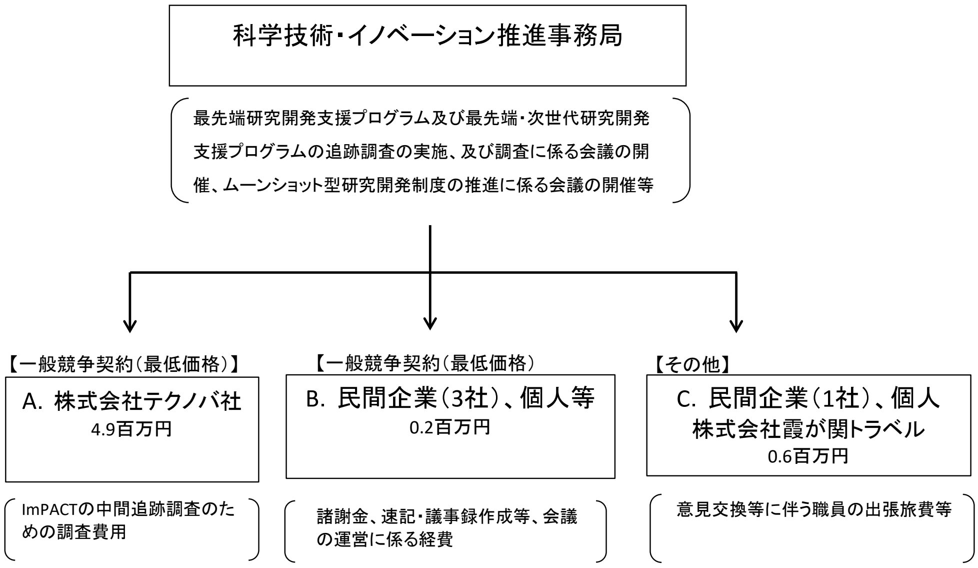
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	0050				
平成24年度	0058				
平成25年度	0135				
平成26年度	0132				
平成27年度	0145				
平成28年度	0138				
平成29年度	0144				
平成30年度	0160				
令和元年度	内閣府	−			0160
令和2年度	内閣府				0163

令和3年度	2021	府	20	0176																
令和4年度	2022	府	21	0176																

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）



費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.

費　目	使　途	金　額（百万円）
人 件 費	研究職員の雇用	3.2
プログラム作成費	Webアンケートインタビュー謝金、報告書印刷費等	1.3
一般管理費	上記経費の9.5178%	0.4
計		4.9

B.

費　目	使　途	金　額（百万円）
外部委託	速記・議事録作成業務（令和4年度9月分、1月分、3月分）	0.2
計		0.2

C.

費　目	使　途	金　額（百万円）
外部委託	海外視察に伴う航空チケット手配	0.3
計		0.3

D.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載	チェック	

支出先上位10者リスト

A.

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額（百万円）	契約方式等	入札者数（応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策（支出額10億円以上）
1	株式会社テクノバ	8010001023561	ImPACT事業の追跡調査業務	4.9	一般競争契約（最低価格）	2	-	-

B

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額（百万円）	契約方式等	入札者数（応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策（支出額10億円以上）
1	株式会社会議録研究所	6011101004370	速記・議事録作成	0.2	一般競争契約（最低価格）	2	-	-
2	株式会社インターグループ	8120001060882	資料翻訳およびネイティブチェック	0	随意契約（少額）	-	-	-
3	株式会社福本園	4013301011504	会議用飲料購入	0	随意契約（少額）	-	-	-
4	個人A	-	会議に伴う旅費・謝金	0	その他	-	-	-
5	麹町税務署	-	会議に伴う旅費・謝金	0	その他	-	-	-

C

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額（百万円）	契約方式等	入札者数（応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策（支出額10億円以上）
1	株式会社霞が関トラベル	6010001013886	海外視察に伴う航空チケット手配	0.3	その他	-	-	-
2	個人B	-	視察に伴う旅費	0.1	その他	-	-	-
3	個人C	-	視察に伴う旅費	0.1	その他	-	-	-
4	個人D	-	視察に伴う旅費	0	その他	-	-	-
5	個人E	-	視察に伴う旅費	0	その他	-	-	-
6	個人F	-	視察に伴う旅費	0	その他	-	-	-
7	個人G	-	視察に伴う旅費	0	その他	-	-	-
8	個人H	-	視察に伴う旅費	0	その他	-	-	-